

御園小だより

平成25年8月20日
伊勢市立御園小学校

No. 72

校長室より

我が家の庭に、突然百合の花が咲きました。別に球根を植えたわけでもありませんし、種などを蒔いたわけでもありません。何の植物かはわからずに、それでも普通の雑草とも



違っていたので、抜かずにおきました。そして、1年ほどの茎の上に、8月初めに白い百合の花が咲いたのです。そういえばこの百合の花、最近道路の脇でよくみかけますね。いろいろと調べてみると、この百合は「タカサゴユリ」という帰化植物で、原産地は台湾だとわかりました。観賞用に戦前に持ち込まれた

もので、大量に種子が出来て風で広範囲に運ばれる上に、荒地でもよく育つために、福島県以南に広がったようです。

百合の花というと、ササユリでもカサブランカでも、テッポウユリでも独特の甘い香りを連想しますね。ですから、花屋さんでも百合の花を見かけると、必ずと言っていいほど鼻を近づけて香りを楽しもうとします。でも、この百合の花には全く香りがありません。期待が大きいほど、香りがなかったときの落胆も大きくなります。そんなの花のせいではないのですが、勝手に腹を立てて「なんやこの花」などつぶやいてしまいます。本当に花にしてみたら、いい迷惑ですね。



意識して見てみると、このタカサゴユリはいたるところで見かけます。志摩の国道を走っている時にも、道路脇の荒地にたくさん見かけました。あのセイタカアワダチソウやオオキンケイギクのように、いつの間にか身近に入り込み、爆発的に広がっているのですね。今のところ、タカサゴユリが害になると聞いたことはありません。また親しみやすい花であることから、駆除をするという話も聞いたことはありません。その上、連作障害が出やすく、何年かするとその場所から姿を消してしまうのだそうです。

ただ、今までなかったものが、大量に育つようになるには、そこには理由があるのでしょう。それが地球温暖化なのか、開発が進んだためなのかはわかりません。でも、私たちの周りの何かが変化していることだけは事実のようです。音も匂いもなく忍び寄る百合の花、今後も注視していかなければならないのかも知れませんね。

生活のリズムを取り戻そう！

今年の夏休みも残すところ二週間足らずとなりました。すでに1ヶ月が経過した訳ですが、お子様の様子はいかがでしょう。もしかすると、昼夜逆転に近いような生活にはなっていないでしょうか。夜更かしや朝寝坊の習慣を元に戻すには、少なくとも一週間はかかります。そろそろ新学期の準備に取りかかっていたきたいなと思います。「早く寝なさい」はなかなかできないようです。少し眠そうにしている、早く起こしてあげることが効果的ではないでしょうか。9月2日になって、あわてて起こしても、なかなか元のリズムは取り戻せません。どうぞよろしく願いいたします。

今年はヒグラシの鳴き声が・・・

私の家は、神宮林のすぐ側にあります。夏になると、朝夕にうるさいほどヒグラシの「カナカナカナ」という鳴き声が聞こえてきます。朝まだ薄暗い頃にヒグラシの声で目覚め、夕方には黄昏時に鳴くヒグラシの声を聞いて、一日の終わりを実感してきました。ところが、今年はそのヒグラシの声が全く聞こえてこないのです。こんなことは初めてです。近くで大きな工事があった訳でもありません。地球温暖化などの、もっと大きな環境の変化があったからなのでしょう。何ともさみしい事態です。もしかすると、私の家の周りだけに限ったことかも知れません。みなさんのお宅はいかがでしょう。

ところで、ヒグラシの鳴き声は聞こえて来ませんでした。先週末にツクツクボウシは鳴き始めました。まだまだ上手ではありませんでしたが、いよいよ秋の到来を感じました。

ひょうたん池の清掃

残暑の厳しい中、ひょうたん池の清掃をしていただきました。普段は浮いているゴミや落ち葉を取り除く程度の清掃しかできませんが、今回は池の水を抜いて、底にたまった藻なども取り除いていただきました。

池の中には、思っていたより多くのフナなどの魚がいました。また、小さなエビが大量に生息していました。魚たちはこの大



量のエビを餌にして、仲間を増やしていったんですね。トンボが産卵に来たり、アオサギが魚を啄みに来たりと、すでにこの池は、魚や昆虫や鳥たちにとって、なくてはならない場所になっているようです。水辺の草も生い茂り、子どもたちが理科の観察をする場所にもなっています。池というよりも、ビオトープと呼んでもいいのかも知れませんね。

前期後半は、9月2日（月）よりスタートします。そろそろ持ち物の準備点検等をお願いいたします。